

米国のAI開発・実用化とフィンテックAIの動向

八山 幸司

目 次

1. はじめに
2. 人工知能の実用化の動向
3. 金融分野における人工知能の実用化の動向
4. フィンテックAIの実用化における今後の課題
5. 終わりに

多くの分野で人工知能（AI）の実用化が進む中、金融分野でも徐々にAIを活用したビジネス（フィンテックAI）が広がってきている。金融とITの先進国である米国におけるフィンテックAIの状況に関して、大手金融機関やITベンチャーの取組み、そして今後の課題を紹介する。

1. はじめに

IT先進国の米国では、多くの先端ITが次々と新しいビジネスモデルを生み出し、ビジネスやライフスタイルを変革している。特に技術開発が急速に進む人工知能（AI）は大きな可能性を生み出し、既に多くの分野で実用化が進んでいる。その中でも非構造化データが豊富な金融分野は、今後AIの実用化が大いに期待できる分野と考えられ、「フィンテックAI」とも呼べる金融サービスにおけるAIを活用したビジネスは、金融界を大きく変革していく可能性があると考えている。他方、人工知能が実際の生活やビジネスで活用する機会が

増えるにつれて、安全性・社会倫理・責任問題など人間社会と同じような議論も起こり始めている。しかし、これは人工知能が人間と同じレベルに近づいてきたからとも言えるだろう。IT先進国の米国における人工知能の実用化に向けた動向、そして米国大手金融機関や主な米国IT企業が積極的に取り組む「フィンテックAI」、更に今後の課題について紹介する。

2. 人工知能の実用化の動向

人工知能の実用化が進んでいる分野として、医療・流通・行政等の分野における例を紹介する。



八山 幸司 (はちやま こうじ)

内閣官房 情報通信技術 (IT) 総合戦略室参事官。1992年東京工業大学大学院修了。同年、通商産業省 (現・経済産業省) 入省。在インドネシア日本国大使館勤務などを経て、2008年から厚生労働省、内閣官房にて医療ITなどによる医療産業育成に取り組む。12年に経済産業省で地球温暖化対策の担当室長を経て、14年から日本貿易振興機構 (JETRO) / 情報処理推進機構 (IPA) ニューヨーク事務所米国IT動向調査を担当。17年から現職。